

なれり。此所青梅八王子府中の海道也。

鉦打町 長百二十七間 蓮馨寺分 遊行派の道心
誓願をて、鉦を叩、説經を語る者あり。彼等が草分
の地なれば、かく云。今に二三人居住。當所も新田
輪の代地にて、米年貢の場也。

猪鼻町 長八十五間 脇田分 今名主猪鼻安兵衛
先祖、草分の地也。

久保町 長百八十五間 松郷分にて地低の所なり。
跡先に石橋あり。是より仙波村へ掛り、足立與野
大宮岩附等への海道也。

上松江町新道 世俗に鉄砲町といふ下松郷分 元

此所御茶園なりしを美濃守殿時代鉄砲師國友
佐五右衛門に給はる抑國友佐五右衛門は生國
江州國支村の者にて伊豆守殿被抱上松郷南久
保町入口南角にて屋敷給はる、則北通り表に長
屋建、細工所とす、所替に付、其儘差置れ、美濃守殿
時代召出し、只今迄の居宅、町屋の中にて手せば
に付御茶園の場所給はる。程なく所替に付、佐五
左衛門は甲府に來り、猶源内此所に居住、亦當御
代召出し、享保十五戊年、此入口を用ひ猪鼻町に

の直路付、居宅新道の北側に建直し、両側借地とし、今は家居建續き、國友の取立の鉄砲町ともいへり。

仙波新田 長百八十間江戸より入口 百姓商人
入込の所、七八十年以前までは、居屋敷面々の家作豎に一屋敷宛離れて、外は生垣竹藪なりしが、次第に當所繁華に従ひ、町並軒ならべ、年々営みの便となれり。元祿の頃美濃守殿領地に成、暫の間旅人の泊宿となれり。當御代に至り又昔の通り其義相止。

下松郷 長二百六間 大方ならず商人なれとも郷分の地也。

藜 組町より仙波江の脇道 藜次左衛門と云者取立の所故かく云。

石原宿 長(下欠) 此所古代は石河原成しをいつとなく家居たちこみ今は旅人の泊宿となれり石河原成し故石原とよひ來れり。すへて高澤川向通りは皆石原也。袋町もおなし。

釋教

古塚稻荷

裏宿

村岡彌五兵衛屋敷内に有余

程の塚有其上に稻荷の社有、古代進喜四郎殿先祖此所に居住有し時ふしきの靈驗ありとかや、川越七社の内のよし

小夜塚 裏宿 村岡金藏跡屋敷内に有、新田義

貞の愛玉女おもひ者小夜姫といへる女の墓印なりと

いふ。塚の形はなし。古來の榎あり。大き三抱あま
り誠まことに牛を隠すへきとも云ひやべし。幹七八尺
斗はしにて數十枝四方へ別れ、梢はし地はに付く斗はしなり。上
にて廣かりし事凡三百坪余なり有とかや。如何
なる子細こまごまにや古來より言傳へしとて枝を伐る

事あらねば、心のまゝに繁り、梢は隣家の屋敷に
跨またかり道を覆ふて、新樹の頃は猶雲をとぢ、風の
音すさまじく、如何様類なき古木也。此株に稻荷
の社あり。是も七社の内のよし、奇端あるなり。
榎本稻荷本所 南側裏宿より寄當に有此地は
榎本弥左衛門家屋敷内也。是七社の内のよし。此
所より多賀所への近道有しと云。

烏山稻荷 新門前社地は鴨町分別當は行傳寺
鎮座年曆不知、往古鴨町一町の産神にして、四月
朔日は湯立などあり、六七十年来以來當所一統

に氷川の氏子となれり、當社は行傳寺持分なり。
今に鴨町ふるきものは四月朔日神酒備て、其遺
風今に有。是も七社の内のよし。

本阿彌稻荷鉦打町 中程の裏にあり、當所草分
の鉦打本阿彌と云者、取立の稻荷故かく名付た
り。

東明寺稻荷 東明寺境内に有 是も七社の一に
して靈驗あらたなるよし

芝野稻荷高沢町末的場 是も七社の内にして
元觀音寺持分也中頃高澤町に屬、又近年觀音寺

しはい也

窪稻荷 窪 此社も靈驗あらたなる由ひと、せ
寔永の頃雜賣長兵衛といふ者、此邊に住、乏し
き商せしかやうく、朝夕を送り、常に大酒無法
の者なれとも、朝暮此稻荷を信仰し賣出し初尾
を小魚二つ三つ備年久、憐急なしけり。或時あき
内の道にて足立桶川の辺へ行き、其夜はそこに
一宿しき、明なはとく歸らんと思ひけるに、曉方
ふしきの靈夢を請たり。朝とく此宿を出放れ、歸
る事宣しからすとなり。依而五ツ頃に支度し心

靜に歸りけるに不思議や此所を十町余過て年の頃十七八斗の女性狼の業と見へ、今喰殺したる有様、目もあてられぬ風情也。漸片息にて其所を過、からき命を拾ひける。是偏に當社の擁護なりと傳へたり。疑敷俗せつなれ共記しておく。

末枯松稻荷城内

太陽寺氏屋敷内に有抑此屋

敷は伊豆守殿家老松井五郎右エ門居屋敷也。或時松井氏の小者白狐の晝寢せし所へいたつらに磔を打し遺恨により松井家三度の火災にあへり程へて京都吉田家より此事つけ來るに依

て社鳥居まで新に造營有り末枯松の稻荷と云を此時迄知る人なし是も川越七社の内のよし右度々の火災といひ本意なく思ひ西町の裏に居宅をしつらひ此所はかよひ家敷とせり居屋敷の事は末に委しくして爰に畧す

民部稻荷組町愁心山と云

往古民部といへる

狐此所に住むといへり。寶永の頃迄民部といへる額鳥居にかゝりしと云。其後額もなく今は知る人もなし。又愁心といへる道心者住し故愁心山とも云へり其後も此森の内に道心庵ありし

に元祿の頃悪盜の爲に殺されそれより後住の
道心もなく草庵も破壊して今以なし。或人の物
語に云寛永の頃多摩郡八王子の近在に有寺寺号不知の
新發意夜毎に何地ともなく遊ひ出けり。住持不
審に思ひ汝は毎夜何方へ行と問小僧答へて私
儀は民部様へ参るといふ。住持いよく不審に
思ひ其民部とは誰人の事そや。されば是より西
七八所を過き小高き一構に高塀白壁作の長屋
門あり内は花やかに玄關之院其外名もしらす座敷教を知らずいみ
じき御浪人也。毎夜私を御咄相手に招呼ばれ種

々の御馳走に預り又今晚も参る御約束いたし
たり。おまへにもあの殿作お目にかけて度と委敷
物語しぬ。住持聞て是より西半里一里か間に人
里もなく木立續きたる山中也。猶心得難く其民
部殿に自分も知る人に成申すへし。今宵参りなほ
約束致し明日寺へも参られ候様に申へしとい
ひ含め其夜も小僧は例の如く黄昏時よりいつ
くともなく出けり。夜更て歸り民部様へ御咄申
たり。殊の外御悦にて候明日御出の筈申けり。明
れは掃除なとして料理等も支度し今やおそし

と侍所に程なく、大門より黒羽織着たる若黨一人、驅け來り、只今民部参上の段申入ると、早々小僧を迎ひに出され、共其体を見るに、物々敷其身は駕籠に乗り、若黨四人、草履取、道具、挾箱、十二三人の供廻り、門外にて駕籠より下り、座敷に通れは、住持も出向ひ、挨拶會釋^{等終り}、多葉粉盒、茶杯出し、毎夜小僧参り、御馳走に預り、過分の段、一禮を謝し、聞及ひたるより、其体歴々の様見へけれ共、どこやら不骨にて言語等詳ならず、何気のつまぬ仁にもあらねば、更に心打とけ、語合、品々馳走、晚景

に及へば、民部一入興に乗して、角力自慢をそしたり。住持答へて、仰のことく角力は勇しきもの也。拙僧も若き時は好出家のいらさる事なから、家來共にも角力ばかりはゆるし、幸召連の内、少々角力心覺の者も有へしとて、骨ふとなる弟子坊主交りに、くつきやうの男四五人、御相手にもと出しけり。民部あさ笑ひ、我らも一二番御慰にとて、用意して、既に角力はじまりぬ。此處が若法師、男共、中々手に合者なく、皆さんく、に投られ、漸角八九番にて、今は相手もなく、各早々仕廻らば、

民部ますく、機嫌よく、角力其外力持のはなし
して、暮にも及べば、最早御暇申すへし、今日は不
存寄始、而召寄られ、長座、其上御馳走、忝の旨、厚く
一禮を述へて、歸りぬ。扱翌日其角力の跡を見れ
は、不思議や、薄赤毛委くこぼれちりてあり。何も
興をさまし、定て狐狸の所爲ならんとそ言ひけ
る。されとも住持何事なく、今晚は使僧なから参
るへしとて、いつもの頃又小僧を遣しければ、民
部も昨日の禮など云て、四方山の咄、常の如くし
て、民部申やう、我等儀も、今迄は何角と心安致、大

慶申也、ちと様子有により、明日は外に所替致す
也。今宵か最早名残也。といひて涙を流しければ、
小僧も共に涙に呉れ、それは如何なる仔細にて、
何方へ御越なさる、といへば、其事よ今までは
つ、みぬれ共、早隱へきやうなし、吾は元來人間
にあらず、狐なり、昨日の如く御寺へ参り、人界の
奈致し候へば、我栖人に知られ、此所にも居りか
たし。是より十里良入間郡川越梵心山と申處へ
参ると云。漸夜もかたむけば、小僧はなく、暇
乞して別れぬいふかしき事なれ共、人々存たる

事故此所に記しおく

浮島稻荷浮島の内 往古仙波星野山の内に有しを慈覺大師開山の時此所に移されたりと云別當尊壽院上松江町住當山派鳳客寺下

神明宮下町橋向 來曆不知別當良學院當山派八幡宮組町中程 來曆不知別當万藏寺天台高松院末

境内除地二段七畝七斗

氷川明神宮ノ下當城良方鬼門の守護 本殿拜

殿寶藏神樂堂石水鉢石燈籠石駒犬石鳥居神輿而基伊豆守信綱寄進社領十五石余寺井伊佐沼

杉下ノ邊ニ有文祿四乙未年二月廿七日城主酒井與七郎忠利寄進それより城主代々其通寄進也天主宮稻荷社人丸宮神主山田近江守元祖山田伊織ヨリ代六世境内坪数(下欠)抑氷川明神は足立一宮の末社にして人皇三十代欽明天皇の御宇此所に草創有當所の鎮守古代はわつかの社成しか老杉古松枝をましへ今は神威す、敷宮社也毎年九月十五日祭禮神事神輿も渡御有氏子屋体等をしつらひ時の踊を催し領主入國の時は是を遠覽あり其日は近郷の里民も群集

して是を見物す此時の賑ひ都に増れり

足立郡大宮駅一宮氷川明神は人皇十一代垂仁
天皇御宇此所に鎮座大門十八町左右の並木松
柏眇々たり本殿は四所所謂男体女体火の王子
宮立は八重立出雲を遷せり

武藏風土記ニ云足立郡氷川神社神田百東十字
田四冊觀松彦香稻天皇御宇三年戊辰所祭素盞
鳴尊大己貴命寄稻田畑三座下畧觀松彦八考照
天皇御事

秋葉山權現蓮馨寺境内 祭禮三月十八日

熊野權現同祭禮三月十五日 當社別當寶壽院

園智院各當山派

秋葉權現榮林寺境内

辨天杜觀音寺妙昌寺

番神宮妙養寺行傳寺本應寺妙昌寺

十王堂猪鼻町 蓮馨寺持

古跡

藥師堂旧地本町 中程今海老屋といへるけん
どん屋の所にあり六七十年以前多賀町へ引た
り今常蓮寺藥師是也。